



サーバの設置

この章では、サーバの設置方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- ・ サーバの開梱と点検(2-1 ページ)
- ・ サーバの設置準備(2-2 ページ)
- ・ ラックへのサーバの設置(2-4 ページ)
- ・ サーバの初期設定(2-8 ページ)
- ・ NIC モードおよび NIC 冗長化の設定(2-12 ページ)
- ・ システム BIOS および Cisco IMC フームウェア(2-13 ページ)
- ・ BIOS および Cisco IMC フームウェアの更新(2-14 ページ)



(注)

サーバの設置、操作、または保守を行う前に、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco UCS C-Series Servers*』を参照して重要な安全情報を確認してください。



警告

安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071

サーバの開梱と点検



注意

内部サーバのコンポーネントを取り扱うときは、静電気防止用ストラップを着用し、常にモジュールのフレームの端を持つようにしてください。



ヒント

サーバの輸送が必要となる場合に備えて、輸送用の箱は保管しておいてください。



(注)

シャーシは厳密に検査したうえで出荷されています。輸送中の破損や内容品の不足がある場合には、ただちにカスタマー サービス担当者に連絡してください。

手順 1 段ボール箱からサーバを取り出します。梱包材はすべて保管しておいてください。

手順 2 カスタマー サービス担当者から提供された機器リストと梱包品の内容を照合します。すべての品目が揃っていることを確認してください。

手順 3 破損の有無を調べ、内容品の間違いや破損がある場合には、カスタマー サービス担当者に連絡してください。次の情報を用意しておきます。

- 発送元の請求書番号(梱包明細を参照)
- 破損している装置のモデルとシリアル番号
- 破損状態の説明
- 破損による設置への影響

サーバの設置準備

ここでは、サーバの設置準備について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [設置に関するガイドライン \(2-2 ページ\)](#)
- [ラックに関する要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [工具の要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [スライド レールの調整範囲およびケーブルマネジメント アームの寸法 \(2-4 ページ\)](#)

設置に関するガイドライン



警告

システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 35 °C (95 °F) を超えるエリアで操作しないでください。

ステートメント 1047



警告

いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019



警告

この製品は、設置する建物に短絡(過電流)保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が 250 V、15 A 以下であることを確認します。

ステートメント 1005



警告

装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。
ステートメント 1074



注意

サーバを取り付ける際は、適切なエアーフローを確保するために、レールキットを使用する必要があります。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つまり「積み重ねる」と、サーバの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が速くなったり、電力消費が高くなったりする原因となる可能性があります。サーバをラックに取り付けるときは、これらのレールによりサーバ間で必要な最小の間隔が提供されるので、レールキットにサーバをマウントすることを推奨します。レールキットを使用してユニットをマウントする場合は、サーバ間の間隔を余分にとる必要はありません。



注意

鉄共振テクノロジーを使用する UPS タイプは使用しないでください。このタイプの UPS は、Cisco UCS などのシステムに使用すると、データトラフィックパターンの変化によって入力電流が大きく変動し、動作が不安定になるおそれがあります。

サーバを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- サーバを設置する前に、設置場所の構成を計画し、設置環境を整えます。設置場所を計画する際に推奨される作業については、『Cisco UCS Site Preparation Guide』を参照してください。
- サーバの周囲に、保守作業および適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。サーバ内では前面から背面へ空気が流れます。
- 空調が、[サーバの仕様\(A-1 ページ\)](#)に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、「ラックに関する要件」セクション(2-3ページ)に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、[サーバの仕様\(A-1 ページ\)](#)に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置(UPS)を使用してください。

ラックに関する要件

ここでは、標準的なオープンラックの要件について説明します。

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準的な 19 インチ(48.3 cm)幅 4 支柱 EIA ラック(ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサルピッチに適合するマウント支柱付き)。
- 付属のスライドレールを使用する場合、ラック支柱の穴は、0.38 インチ(9.6 mm)の正方形、0.28 インチ(7.1 mm)の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- サーバあたりの縦方向の最小ラックスペースは、2 RU、つまり 3.5 インチ(88.9 mm)である必要があります。

工具の要件

このサーバ用にシスコから提供されるスライドレールの場合、設置先のラックに 0.38 インチ(9.6 mm)の正方形、0.28 インチ(7.1 mm)の丸形、または #12-24 UNC のネジ穴があれば、設置用の工具は必要ありません。

■ ラックへのサーバの設置

サポートされるスライド レール キット

このサーバがサポートしている1つのレール キット オプションが、シスコ部品 UCSC-RAILB-M4=(ボールベアリング レール キット)です。

Cisco UCS C240 M3 サーバ用のレール キットを使用しないでください。Cisco UCS C240 M4 サーバ専用のレール キットが設計されています。

スライド レールの調整範囲およびケーブル マネジメント アームの寸法

このサーバのスライド レールの調整範囲は 26 ~ 36 インチ(660 ~ 914 mm)です。

オプションのケーブル マネジメント アーム(CMA)を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- ・ サーバの背面から CMA の背面までの距離は 5.4 インチ(137.4 mm)追加されます。
- ・ CMA を含むサーバの全長は 34.4 インチ(874 mm)です。

ラックへのサーバの設置

ここでは、次の項目について説明します。

- ・ [スライド レールの取り付け\(2-4 ページ\)](#)
- ・ [ケーブル マネジメント アーム\(省略可能\)の取り付け\(2-6 ページ\)](#)
- ・ [ケーブル マネジメント アーム\(省略可能\)の取り付けを逆にする\(2-7 ページ\)](#)

スライド レールの取り付け

この項では、シスコが販売するラック キットを使用して、サーバをラックに取り付ける方法について説明します。



警告

ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

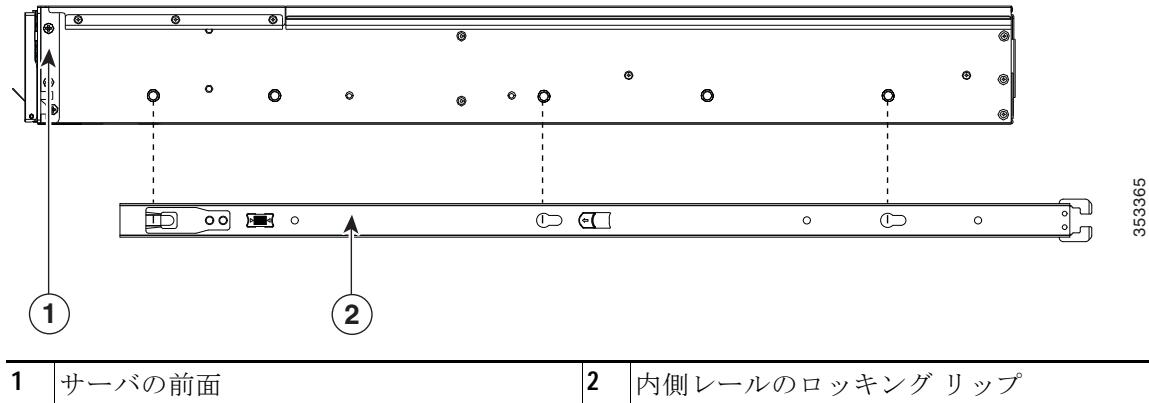
ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。ステートメント 1006

手順 1 サーバの側面に内側レールを装着します。

- レール内の3つのキー付きスロットがサーバ側面の3個のペグの位置に合うように、内側レールをサーバの一方の側の位置に合わせます(図 2-1 を参照)。
- キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロックします。前面スロットには、前面ペグにロックするための金属製クリップがあります。
- 2つ目の内側レールをサーバの反対側に取り付けます。

図 2-1 サーバの側面への内側レールの装着

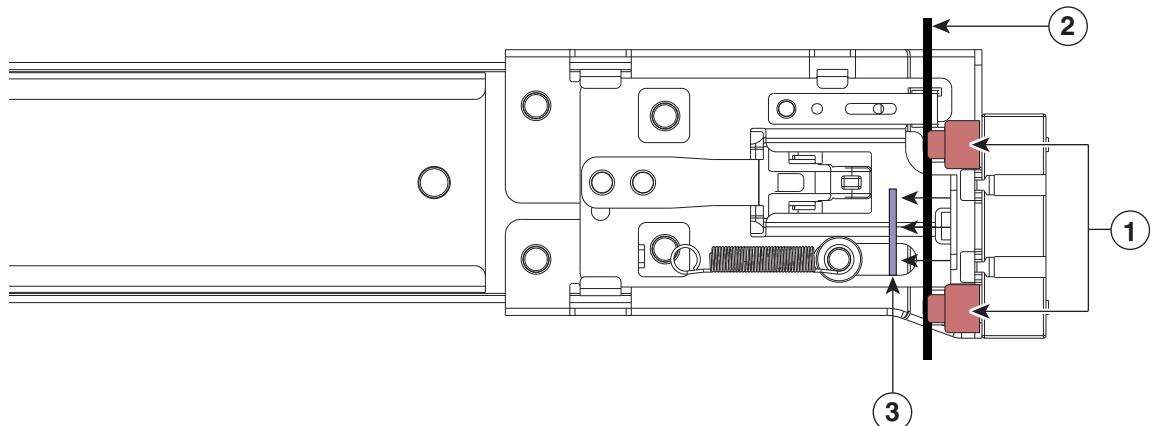


353365

手順 2 両方のスライド レール部品で前面の固定プレートを開きます。スライド レール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります(図 2-2 を参照)。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図 2-2 前面の固定部分、前端の内側



| | | | |
|---|------------|---|--------------------|
| 1 | 前面側の取り付けペグ | 3 | 開いた位置に引き戻された固定プレート |
| 2 | ラック ポスト | | |

手順 3 スライド レールを次のようにラックに取り付けます。

a. 片側のスライド レール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。

スライド レールの前端をラック支柱の外側に迂回させ、取り付けペグを外側前面からラック支柱の穴に入れます(図 2-2 を参照)。



(注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。

b. 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。

■ ラックへのサーバの設置

- c. 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリース ボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。
- d. スライドレールの長さを調整したら、背面取り付けペグを対応する背面ラック支柱の穴に差し込みます。スライドレールは前面から背面に向かって水平である必要があります。
背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
- e. 2つ目のスライドレール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2つのスライドレール部品が相互に同じ高さであり、水平になっていることを確認します。
- f. 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライドレールをラック前方へ引き出します。

手順 4 サーバを次のようにスライドレールに装着します。

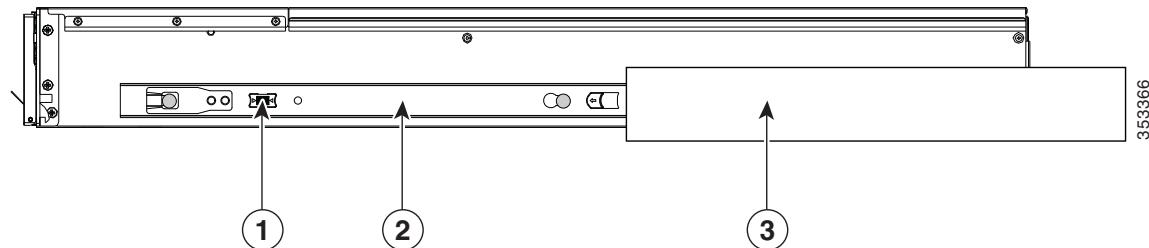


注意

このサーバは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で 30 kg(67 ポンド)の重量になります。サーバを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を1人で実行しようとすると、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

- a. サーバの側面に装着されている内側レールの背面を、ラック上の空のスライドレールの前端の位置に合わせます。
- b. 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライドレールに押し込みます。
- c. 両方の内側レールでリリースクリップを背面に向けてスライドさせたら(図 2-3)、前面のスラムラッチがラック支柱に収まるまで、サーバをラックに押し込みます。

図 2-3 内側レールのリリースクリップ



| | | | |
|---|------------------|---|--------------------|
| 1 | 内側レールのリリースクリップ | 3 | ラック支柱に装着されている外側レール |
| 2 | サーバに装着されている内側レール | | |

手順 5 (任意)スライドレールに付属の2本のネジを使用して、サーバをさらに確実にラックに固定します。サーバを取り付けたラックを移動する場合は、この手順を実行します。

サーバをスライドレールに完全に押し込んだ状態で、サーバ前面のヒンジ付きスラムラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、サーバが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラムラッチについても行ってください。

ケーブルマネジメントアーム(省略可能)の取り付け

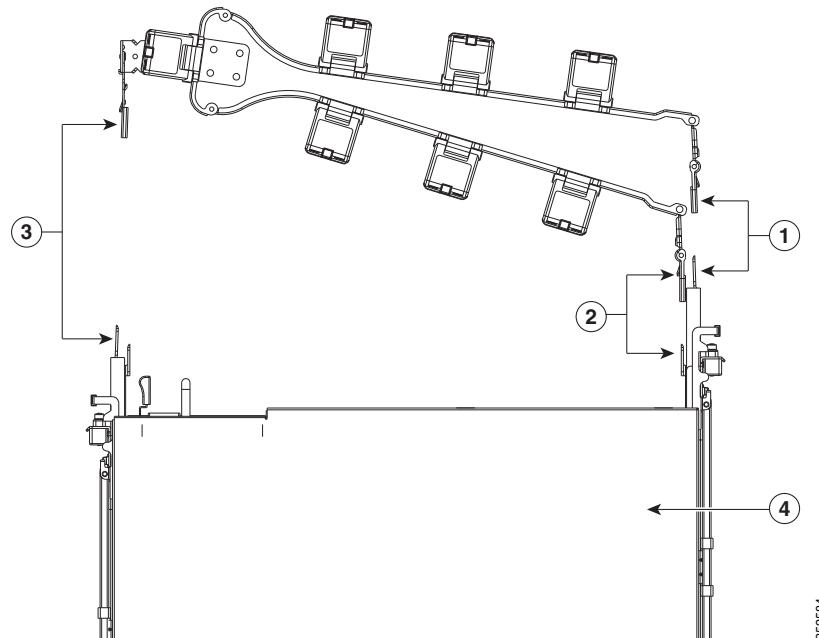


(注)

CMAは左右逆に取り付けることができます。CMAを逆に取り付けるには、取り付ける前に [ケーブルマネジメントアーム\(省略可能\)の取り付けを逆にする\(2-7 ページ\)](#) を参照してください。

- 手順 1** サーバをラックに完全に押し込んだ状態で、サーバから最も離れた CMA アームの CMA タブを、ラック支柱に装着された固定スライドレールの終端にスライドさせます(図 2-4 を参照)。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- 手順 2** サーバに最も近い CMA タブを、サーバに装着された内側レールの終端にスライドさせます(図 2-4 を参照)。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- 手順 3** ラックの幅に一致するまで、CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを引き出します(図 2-4 を参照)。
- 手順 4** 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に装着された固定スライドレールの終端にスライドさせます(図 2-4 を参照)。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- 手順 5** 各プラスチック製ケーブルガイドの上部でヒンジ付きフランップを開き、必要に応じてケーブルガイドを通してケーブルを配線します。

図 2-4 スライドレールの背面へのケーブルマネジメントアームの装着



| | | | |
|---|--|---|---------------------------------|
| 1 | サーバから最も離れたアームの CMA タブと外側の固定スライドレールの終端 | 3 | 幅調整スライダの CMA タブと外側の固定スライドレールの終端 |
| 2 | サーバに最も近いアームの CMA タブとサーバに装着された内側のスライドレールの終端 | 4 | サーバ背面 |

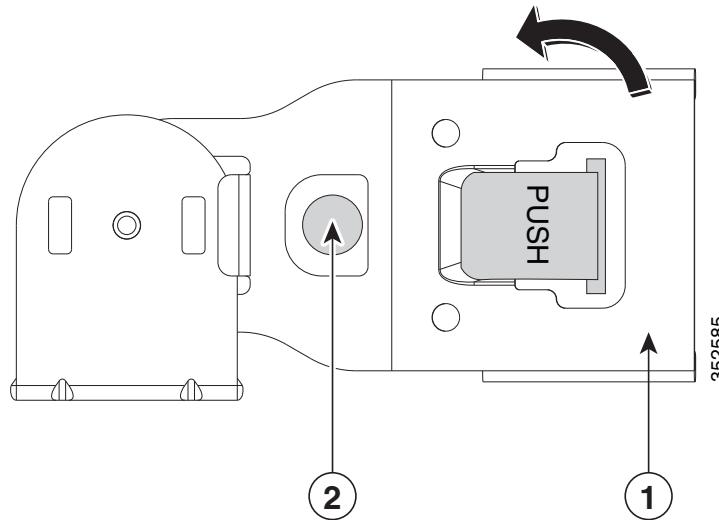
ケーブルマネジメントアーム(省略可能)の取り付けを逆にする

- 手順 1** CMA アセンブリ全体を 180 度回転させます。プラスチック製ケーブルガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。
- 手順 2** サーバの背面を向くように、各 CMA アームの終端でタブを反転させます。

■ サーバの初期設定

手順 3 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、サーバの背面を向くようにタブを 180 度回転させます。

図 2-5 CMA の反転



| | | | |
|---|--------------------|---|----------|
| 1 | 幅調整スライダの終端の CMA タブ | 2 | 回転用金属ボタン |
|---|--------------------|---|----------|

サーバの初期設定

サーバの接続と電源投入(スタンダードアロンモード)



(注)

ここでは、サーバをスタンダードアロンモードで使用する場合のサーバの電源投入方法、IP アドレスの割り当て方法、サーバ管理への接続方法について説明します。サーバを UCS 統合で使用する場合は、固有のケーブル接続および設定が必要です。[Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法 \(E-1 ページ\)](#) を参照してください。

サーバは次のデフォルト設定で出荷されます。

- NIC モードは Shared LOM EXT です。

Shared LOM EXT モードでは、1 Gb イーサネット ポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイス カード(VIC)上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC)にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、次の手順の [手順 1](#) の説明に従って、サーバに接続して NIC モードを変更できます。

- NIC の冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。
- DHCP が有効です。

- IPv4 は有効です。これを IPv6 に変更できます。

システムに接続して初期設定を行うには、次の 2 つの方法があります。

- ローカル設定: キーボードとモニタをシステムに接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) が必要です。[ローカル接続手順 \(2-9 ページ\)](#) を参照してください。
- リモート設定: 専用管理 LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。[リモート接続手順 \(2-9 ページ\)](#) を参照してください。



(注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています ([図 1-1 ~ 図 1-4](#) を参照)。このサーバノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ローカル接続手順

手順 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。電源仕様については、[電力仕様 \(A-1 ページ\)](#) を参照してください。

最初のブート中、サーバがスタンバイ電源でブートするまでに約 2 分かかります。

システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます ([外部機能概要 \(1-1 ページ\)](#) を参照)。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

手順 2 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタをサーバに接続します。

- USB キーボードと VGA モニタを背面パネルの対応するコネクタに接続します ([外部機能概要 \(1-1 ページ\)](#) を参照)。
- オプションの KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を前面パネルの KVM コネクタに接続します (コネクタの位置については、[外部機能概要 \(1-1 ページ\)](#) を参照)。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。

手順 3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

a. 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、サーバを起動します。

b. ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら F8 を押します。

このユーティリティには 2 つのウインドウがあり、F1 または F2 を押すことで切り替えることができます。

手順 4 [Cisco IMC 設定ユーティリティのセットアップ \(2-10 ページ\)](#) に進みます。

リモート接続手順

手順 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。電源仕様については、[電力仕様 \(A-1 ページ\)](#) を参照してください。

最初のブート中、サーバがスタンバイ電源でブートするまでに約 2 分かかります。

システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます ([外部機能概要 \(1-1 ページ\)](#) を参照)。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

■ サーバの初期設定

- 手順 2 管理イーサネットケーブルを背面パネルの専用管理ポートに差し込みます([外部機能概要\(1-1ページ\)](#)を参照)。
- 手順 3 事前設定された DHCP サーバで、サーバノードに IP アドレスを割り当てられます。
- 手順 4 割り当てられた IP アドレスを使用して、サーバノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。IP アドレスを特定するには、DHCP サーバの管理者に相談してください。



(注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin*、デフォルト パスワードは *password* です。

- 手順 5 Cisco IMC の [Server Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別の KVM コンソール ウィンドウが開きます。
- 手順 6 Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle Server] をクリックします。システムがリブートします。
- 手順 7 KVM コンソール ウィンドウを選択します。



(注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウである必要があります。

- 手順 8 プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリティは、KVM コンソール ウィンドウで開きます。
- このユーティリティには 2 つのウィンドウがあり、F1 または F2 を押すことで切り替えることができます。
- 手順 9 [Cisco IMC 設定ユーティリティのセットアップ\(2-10 ページ\)](#) に進みます。

Cisco IMC 設定ユーティリティのセットアップ

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

- 手順 1 NIC モードと NIC 冗長性を設定します。
- NIC モードを設定して、サーバ管理で Cisco IMC にアクセスする際に使用するポートを選択します(ポートの識別については、[図 1-5](#) を参照)。
 - [Shared LOM EXT](デフォルト): これは、工場出荷時設定の shared LOM 拡張モードです。このモードでは、shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。
 - このモードでは、DHCP 応答が shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返されます。サーバがスタンダードアロン モードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンダードアロン モードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。
 - [Dedicated]: Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。NIC 冗長化と IP 設定を選択する必要があります。
 - [Shared LOM]: Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb イーサネット ポートを使用します。NIC 冗長化と IP 設定を選択する必要があります。

- [Cisco Card]:Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード(VIC)のポートを使用します。NIC 冗長化と IP 設定を選択する必要があります。必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。
- [VIC Slot]:Cisco Card NIC モードを使用する場合、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM(mLOM スロット)のいずれかを選択します。
 - Riser1 を選択する場合、スロット 2 がプライマリ スロットですが、スロット 1 を使用できます。
 - Riser2 を選択する場合、スロット 5 がプライマリ スロットですが、スロット 4 を使用できます。
 - Flex-LOM を選択する場合、mLOM スロットで mLOM-style VIC を使用する必要があります。
- b. 必要に応じて NIC 冗長化を変更するには、このユーティリティを使用します。このサーバでは、次の 3 つの NIC 冗長化設定を行うことができます。
 - [None]:イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
 - [Active-standby]:アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにトラフィックがフェールオーバーします。
 - [Active-active]:すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長化の設定のみが可能です。Shared LOM と Cisco Card モードでは、Active-standby と Active-active の両方の設定が可能です。

手順 2 ダイナミック ネットワーク設定用に DHCP をイネーブルにするか、スタティック ネットワーク設定を開始するかを選択します。



(注)

DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバにこのサーバの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

スタティック IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- Cisco IMC の IP アドレス。
- プレフィックス/サブネット。
- IPv6 の場合、有効な値は 1 ~ 127 です。
- ゲートウェイ。
- IPv6 の場合、ゲートウェイが不明な場合は、::(コロン 2 つ)を入力して none のままに設定することができます。
- 優先 DNS サーバアドレス。

IPv6 の場合、::(コロン 2 つ)を入力してこれを none のままに設定することができます。

手順 3 (任意)このユーティリティを使用して、VLAN 設定を行います。

手順 4 F1を押して 2 番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。

2 番目のウィンドウで F2を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。

手順 5 (任意)サーバのホスト名を設定します。

■ NIC モードおよび NIC 冗長化の設定

- 手順 6 (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。
- 手順 7 (任意) [Factory Default] チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。
- 手順 8 (任意) デフォルトのユーザ パスワードを設定します。
- 手順 9 (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定します。



(注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックス モードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定する必要があります。

- 手順 10 (任意) ポート プロファイルとポート名をリセットします。

- 手順 11 F5 を押して、行った設定に更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。その後、次の手順でサーバを再起動します。

- 手順 12 F10 を押して設定を保存し、サーバを再起動します。



(注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続します。IP アドレスは、行った設定に基づいています(スタティック アドレスまたは DHCP サーバによって割り当てられたアドレス)。



(注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

サーバを管理するには、これらのインターフェイスの使用手順について『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide』または『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide』を参照してください。これらのマニュアルへのリンクは、次の URL の C シリーズ マニュアル ロードマップ内にあります。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

NIC モードおよび NIC 冗長化の設定

NIC モード

このサーバには、次のような選択可能な NIC モード設定があります。

- [Shared LOM EXT](デフォルト): このモードは、工場出荷時設定の shared LOM 拡張モードです。このモードでは、shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。

このモードでは、DHCP 応答が shared LOM ポートと Cisco カードポートの両方に返されます。サーバがスタンダロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されると判別された場合、応答にはサーバを自動的に UCSM モードにするパラメータが含まれます。

- [Dedicated]: Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。NIC 冗長化と IP 設定を選択する必要があります。
- [Shared LOM]: Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb イーサネットポートを使用します。NIC 冗長化と IP 設定を選択する必要があります。
- [Cisco Card]: Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード(VIC)のポートを使用します。NIC 冗長化と IP 設定を選択する必要があります。必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。
- [VIC Slot]: Cisco Card NIC モードを使用する場合、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択します。Riser1、Riser2、または Flex-LOM(mLOM スロット)のいずれかを選択します。
 - Riser1 を選択する場合、スロット 2 がプライマリスロットですが、スロット 1 も使用できます。
 - Riser2 を選択する場合、スロット 5 がプライマリスロットですが、スロット 4 も使用できます。
 - Flex-LOM を選択する場合、mLOM スロットで mLOM-style VIC を使用する必要があります。

NIC 冗長化

このサーバには、次のような選択可能な NIC 冗長化設定があります。

- [None]: イーサネットポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- [Active-standby]: アクティブなイーサネットポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。
- [Active-active]: すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長化の設定のみが可能です。Shared LOM と Cisco Card モードでは、Active-standby と Active-active の両方の設定が可能です。

Active-active 設定では、モード 5 またはバランス TLB(ロードバランシングを発信する適応型)を使用します。これは特別なスイッチのサポートを必要としないチャネルボンディングです。発信トラフィックは、各スレーブの現在の負荷を実行(速度に関連して計算される)配信されます。着信トラフィックは現在のスレーブによって受信されます。受信のスレーブで障害が発生すると、別のスレーブは、失敗した受信のスレーブに MAC アドレスを引き継ぎます。

システム BIOS および Cisco IMC ファームウェア

ここでは、システム BIOS について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [BIOS および Cisco IMC ファームウェアの更新\(2-14 ページ\)](#)
- [システム BIOS へのアクセス\(2-14 ページ\)](#)

BIOS および Cisco IMC ファームウェアの更新



注意

BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバが起動しません。BIOS と Cisco IMC のファームウェアが一致するまで電源をオフにしないでください。オフにすると、サーバが起動しなくなります。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードできるよう支援するために、Cisco Host Upgrade Utility を提供しています。

サーバには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェアイメージと共にリリース ノートを提供しています。ファームウェアを更新するには、いくつかの方法があります。

- **システム コンポーネント ファームウェアを更新する場合の推奨手順:** Cisco Host Upgrade Utility を使用し、Cisco IMC、BIOS、LOM、LSI ストレージ コントローラと Cisco UCS VIC ファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードします。
ファームウェア レベルについては、下記のマニュアル ロードマップ リンクにある『Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide』を参照してください。
- EFI インターフェイスを使用して BIOS をアップグレードするか、Windows または Linux プラットフォームからアップグレードします。
『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server BIOS Upgrade Guide』を参照してください。
- Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。
『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers Configuration Guide』を参照してください。
- Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。
『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers CLI Configuration Guide』を参照してください。

上記のマニュアルへのリンクについては、次の URL にあるマニュアル ロードマップを参照してください。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

システム BIOS へのアクセス

サーバの BIOS 設定を変更できます。詳しい手順は、BIOS 画面にも表示されます。

- 手順 1** ブート中にメッセージが表示されたら、F2キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。



(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

- 手順 2** 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。

- 手順 3** 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。

- 手順 4** Enterキーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。

手順 5 Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

手順 6 Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップ ユーティリティを終了します(または、F10キーを押します)。Escキーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

■ システム BIOS および Cisco IMC ファームウェア